

参加者へのお知らせとお願い

最新情報は必ず学術集会ホームページにてご確認ください。

1. 参加について

- ・会場へお越しいただく前にオンラインにて参加登録をお済ませください。
- ・会場での現金による参加登録・参加費のお支払いはできません。全てオンライン参加登録となります。
- ・参加登録後のキャンセル、返金には応じられませんのでご了承ください。
- ・ネームカード発券には、参加登録後に発行されるQRコードが必要になります。ご自身のログインIDとパスワードにてオンライン参加登録サービスカウンターにログインいただき、QRコードを取得して会場へお越しください。QRコードを現地の受付に設置する発券機にかざしていただくとネームカードが発券されます。
- ・各種単位を取得するためには、学術集会への参加登録が必須になります。

※ QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

2. 開催概要

名 称：第10回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会

会 期：現地：2026年10月29日（木）～10月31日（土）

オンデマンド配信 2026年11月18日（水）～12月18日（金）

会 場：パシフィコ横浜 会議センター

会 長：川手 信行（昭和医科大学医学部 リハビリテーション医学講座 主任教授）

3. 参加登録期間

早期参加登録期間 2026年8月28日（金）正午～9月29日（火）正午

通常参加登録期間 2026年9月29日（火）正午～12月18日（金）23:59まで
（オンデマンド配信終了まで）

4. 参加費

参加区分		早期参加登録費 8月28日(金) 正午～ 9月29日(火) 正午	通常参加登録費 9月29日(火) 正午～ 12月18日(金)	参加費に含まれるもの
A	正会員(医師・医師以外)	20,000円 (不課税)	22,000円 (不課税)	・学術集会ネームカード (会場にて発券) ・オンデマンド配信視聴用ID ・(参加単位取得用)学術集会 参加証明書
B	非会員(医師・歯科医師・企業関係者)	24,200円 (税込)	26,400円 (税込)	・学術集会ネームカード (会場にて発券) ・オンデマンド配信視聴用ID
C	専門職会員 ※1	7,000円 (不課税)	8,000円 (不課税)	
D	非会員(医師・歯科医師以外)、臨時会員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、看護師、薬剤師、社会福祉士(ソーシャルワーカー)、精神保健福祉士、管理栄養士・栄養士、臨床工学士、臨床検査技師、公認心理師、臨床心理士、歯科衛生士、介護福祉士、介護支援専門員、診療放射線技師、行政職、学部学生(医学部医学科および専修学校学生以外)、その他	8,800円 (税込)	9,900円 (税込)	
E	初期研修医 ※2	2,200円 (税込)	2,200円 (税込)	
F	学生(医学部医学科および専修学校学生) ※2	無料	無料	
G	名誉会員・功労会員 ※3	ご招待	ご招待	

※1 専門職会員とは医師・歯科医師以外の医療・介護・福祉関連専門職を対象とした、正会員とは別の会員資格です。

日本リハビリテーション医学会で2018年より会員種別に追加された専門職会員への入会審査により入会された方が対象となります。職種が専門職の方でも、日本リハビリテーション医学会へご入会された際に正会員(医師以外)で入会された方については、会員種別は正会員となります。

詳細は日本リハビリテーション医学会・入会案内をご参照ください。

※2 初期研修医の方は所属長捺印のある在職証明書を、学生(医学部医学科および専修学校学生)の方は学生証の写真を、参加登録後に届く自動返信メールに記載のアップロード先まで提出してください。

※3 名誉会員・功労会員の方は、ご招待のため参加費は不要です。別途メールもしくは郵送にて参加登録方法をご案内いたします。

●大学院生は以下の参加区分となります。

医師・歯科医師：上記A またはB

医師・歯科医師以外：上記C またはD

5. 参加登録メールアドレス (ID) とパスワード

オンライン参加登録時にご自身で登録されたメールアドレスとパスワードは、本学術集会のオンデマンド配信視聴サイトとオンライン参加登録サービスカウンターへログインする際に必要となります。個人情報保護のため自動配信メール等へパスワードの記載はございませんので、ご自身でお控えのうえ、お忘れにならないようご注意ください。

※こちらのパスワード設定は、第10回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会への参加登録のために指定していただくパスワードとなります。日本リハビリテーション医学会へ会員登録されているパスワードの運用とは異なりますので、ご注意ください。

6. ネームカード・参加証明書・領収書の発行について

種別	現地参加	オンデマンド配信
ネームカード	決済完了後に発行される QR コードを現地の発券機でスキャンしてネームカードをお受け取りください。	発行なし
参加証明書	オンライン参加登録サービスカウンターよりダウンロードいただけます。 【ダウンロード可能期間：2026 年 11 月 2 日（月）正午～12 月 31 日（木）23:59 まで】	
領収書	オンライン参加登録サービスカウンターよりダウンロードいただけます。 【ダウンロード可能期間：決済完了後～2026 年 12 月 31 日（木）23:59 まで】	

●ネームカード発券

場 所：参加受付（パシフィコ横浜 会議センター 3F ホワイエ）

日 時：10月29日（木）9:00～17:30

10月30日（金）8:00～17:30

10月31日（土）8:00～15:00

7. プログラム・抄録集について

・抄録集の冊子発行、事前送付はございません。

学術集会 HP「プログラム・抄録集」より PDF にて閲覧できます。

なお、プログラム・抄録集の閲覧にはパスワードの入力が必要です。

パスワードは会員メールおよび参加登録決済完了メールにてご案内しております。

・プログラム集（冊子）を現地会場にて無料配布いたします。

8. 日本リハビリテーション医学会事務局デスク

場 所：パシフィコ横浜 会議センター 3F ホワイエ

日 時：10月29日（木）9:00～17:00

10月30日（金）9:00～17:00

10月31日（土）9:00～11:30

9. YIA 候補演題セッションおよび関連専門職優秀演題候補セッション

・YIA に応募いただいた一般演題全 67 演題の中から事前審査で選出した 24 演題の演者につきましては、閉会式にて表彰式を行いますので是非ご参加ください。なお 10 月 29 日（木）の YIA 候補演題セッション 1～4 の口述発表にて審査を行い、最優秀賞、優秀賞を決定いたします。

・優秀演題に応募いただいた非会員関連専門職演題全 147 演題の中から事前審査で選出した 18 演題の演者につきましては、閉会式にて表彰式を行いますので是非ご参加ください。なお 10 月 30 日（金）

の関連専門職優秀演題候補セッション1～3の口述発表にて審査を行い、最優秀賞、優秀賞を決定いたします。

10. ポスター発表会場

場 所：パシフィコ横浜 会議センター 3F 301～304

日 時：10月30日（金）10:00と14:00に発表開始

10月31日（土）10:00と14:00に発表開始

11. 共催セミナー

ランチョンセミナー、スイーツセミナーを開催いたします。

・ランチョンセミナーのお弁当は事前申込制とさせていただきます。参加登録画面にて希望するランチョンセミナーをお選びください。

なお、お申込みおよび変更可能期間は、10月21日（水）正午までとなります。

・スイーツセミナーは、事前予約制ではございません。会場前にお並びください。

12. 企業展示

場 所：パシフィコ横浜 会議センター 3F 301～304

日 時：10月29日（木）10:00～18:30

10月30日（金）8:30～18:00

10月31日（土）8:30～15:00

13. クローク

貴重品のお預かりはできませんので、あらかじめご了承ください。

お預けの荷物はその日のうちにお引き取りください。

場 所：パシフィコ横浜 会議センター 3F 318

日 時：10月29日（木）9:00～19:00

10月30日（金）8:00～18:00

10月31日（土）8:00～16:00

14. Wi-Fi

パシフィコ横浜 会議センター常設のフリーWi-Fiをご利用いただけます。

「SSID：FREE-PACIFICO」

15. 託児室

お子様を同伴する参加者のために、会場内に託児室（有料）を開設いたします。完全予約制です。利用ご希望の方は学術集会HP「託児室のご案内」より、10月8日（木）までにお申込みください。

定員になり次第締切とさせていただきますのであらかじめご了承ください。

16. ハンズオンセミナーのお申込み

本学術集会にてハンズオンセミナーを開催いたします。

詳細は学術集会HP「ハンズオンセミナー事前申込」をご確認ください。

17. 現地開催中のお問い合わせ先

名 称：運営本部

場 所：パシフィコ横浜 会議センター 3F 316

期 間：10月29日(木)～10月31日(土)

18. 各種単位のお申込み

本学術集会では、以下の単位が取得可能です。詳細は、次頁以降をご確認ください。

なお、オンライン事前申込みが必要な単位は、学術集会HP「各種単位のお申込み」よりお申込みをお願いいたします。

学会名	単位名	現地参加	オンデマンド配信	オンライン事前申込み
日本リハビリテーション医学会	学術集会参加単位	取得可	取得可	不要
	専門医共通講習会	取得可	取得可	必要
	指導医講習会	取得可	取得可	
	教育研修講演	取得可	取得可	
日本整形外科学会	教育研修講演単位	取得可	取得可	必要
日本医師会	認定産業医研修会	取得可	取得不可	必要
	生涯教育制度学習単位	取得可	取得不可	不要
健康・体力づくり事業財団	健康運動指導士・健康運動実践指導者 登録更新履修単位	取得可	取得可	不要
日本スポーツ協会	公認スポーツドクター更新研修	取得可	取得不可	不要
日本摂食嚥下リハビリテーション学会	認定士単位セミナー	取得可	取得不可	不要

■下記は、学術集会への参加・発表などにより単位取得可能な学会・団体です。

単位申請は、各学会・団体にご確認のうえ、ご自身で行ってください。

学会・団体名	
日本看護協会(認定看護師自己研鑽ポイント)	日本緩和医療学会
日本義肢装具士協会(生涯学習システム単位)	日本言語聴覚士協会
日本作業療法士協会	日本小児神経学会
日本神経学会	日本心臓リハビリテーション学会
日本腎臓リハビリテーション学会	日本頭痛学会
日本生活期リハビリテーション医学会	日本認知症ケア学会
日本脳卒中学会	日本リウマチ学会
日本臨床神経生理学会	日本老年医学会
日本老年精神医学会	

学術集会における「専門医共通講習会」受講証明について

「専門医共通講習」は、日本専門医機構が新専門医制度においてすべての基本領域専門医に共通して受講する項目として定めています。本学術集会では9つの演題が「専門医共通講習」として日本専門医機構に認定されており、有料(1講演1,000円)で受講できます。

必修講習A(医療安全、感染対策、医療倫理)および必修講習B(医療制度と法律、地域医療、医療福祉制度、医療経済(保険医療等)、両立支援)の合計8項目は、専門医更新者全員が更新までに各1回以上受講する必要があります。なお学会専門医から更新した機構認定専門医は2025年度までは必修講習Bの受講を猶予されていましたが、2026年度から適用されます。

専門医共通講習(必修講習A・B、任意講習C)の受講単位は、専門医更新に必要な50単位に含めることができますので(5年間で最大10単位まで)、この機会に是非受講してください。詳細は日本専門医機構HPをご確認ください。

※専門医共通講習会では、認定臨床医・認定臨床医受験資格の単位は取得できません。

■現地参加の場合

(1) 事前単位申込み

・学術集会HP「各種単位のお申込み」よりお申込み・お支払いを行ってください。

(2) 受講カードの受け取り

単位受付(パシフィコ横浜 会議センター 3F ホワイエ)にて、申込み済みの専門医共通講習受講カード・受講証明書を各講習の開始前までにお受け取りください。

(3) 受講カードの提出

受講カードに必要事項をご記入のうえ、講演終了時に、受講した会場の回収箱に提出してください。受講カードの提出がない場合、単位は認定されません。複数の受講カードを同じ回収箱に提出した場合は、1枚のみが有効となります。

※受講カードの色は下記をご確認ください。

- ・医療倫理、医療安全、感染対策(緑色)
- ・医療制度と法律、地域医療、医療福祉制度、医療経済、両立支援(青色)
- ・臨床研究・臨床試験(紫色)

※受講カード・受講証明書の再発行はできません。

※受講証明書はご自身で大切に保管してください。

■オンデマンド配信視聴の場合

(1) 単位申込み

・学術集会HP「各種単位のお申込み」よりお申込み・お支払いを行ってください。

(2) オンデマンド配信サイトへログインし、必ず期間内に視聴を完了してください。

オンデマンド配信期間：2026年11月18日(水)～12月18日(金)

(3) 単位申込みおよび決済と、オンデマンド配信動画視聴後に表示される設問に合格の履歴が確認できましたら単位付与となります。

■ 2026年10月29日(木) 第5会場(パシフィコ横浜 会議センター 4F 416+417会議室)

時間	種別	セッション名・演題名・演者
14:10～15:10	感染対策 (A)	専門医共通講習会1(感染対策) COVID-19から学ぶ医療 — この経験を未知のパンデミックにつなぐ — 平田 知大(宇治徳洲会リハビリテーション病院リハビリテーション科)
16:30～17:30	医療倫理 (A)	専門医共通講習会2(医療倫理) 障害児者当事者と家族に向き合う医療倫理—倫理的配慮と合理的配慮をめぐって— 大屋 滋(九十九里ホーム病院)
17:40～18:40	医療制度と 法律 (B)	専門医共通講習会3(医療制度と法律) 診療報酬から読み解く医療の現在地と未来 木下 翔司(東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座)

■ 2026年10月30日(金) 第6会場(パシフィコ横浜 会議センター 4F 418会議室)

時間	種別	セッション名・演題名・演者
10:50～11:50	医療安全 (A)	専門医共通講習会4(医療安全) 医療における活動性向上と転倒予防 宮越 浩一(亀田総合病院リハビリテーション科)
13:15～14:15	臨床研究・ 臨床試験 (C)	専門医共通講習会5(臨床研究・臨床試験) 臨床医のための研究立ち上げと支援体制の実際 -研究をどう始めるのか - 三邊 武彦(昭和医科大学統括研究推進センター)
14:25～15:25	医療福祉 制度 (B)	専門医共通講習会6(医療福祉制度) 医療・介護・障害福祉制度をつなぐ実践 — 現場から考える意思決定支援の実際 — 井上 健朗(東京通信大学人間福祉学部人間福祉学科)

■ 2026年10月31日(土) 第6会場(パシフィコ横浜 会議センター 4F 418会議室)

時間	種別	セッション名・演題名・演者
10:50～11:50	医療経済 (B)	専門医共通講習会7(医療経済(保険医療等)) 医療の価値と医療経済 — 限られた資源をどう活かすか — 的場 匡亮(昭和医科大学大学院保健医療学研究科)
13:10～14:10	両立支援 (B)	専門医共通講習会8(両立支援) 治療と仕事の両立支援の実際と医療の役割 豊田 章宏(中国労災病院治療就労両立支援センター)
14:20～15:20	地域医療 (B)	専門医共通講習会9(地域医療) 地域医療における生活期医療の課題と可能性 — 外来・在宅・多職種連携の実際から 前島 早代(医療法人社団涓泉会山王リハビリ・クリニック)

学術集会における「指導医講習会」の受講証明について

指導医資格の新規認定および更新ならびにリハビリテーション科専門医更新には申請までに指導医講習会を1回以上受講する必要があります。本学術集会においては、「指導医講習会①」「指導医講習会②」の2講演を聴講することで指導医講習会を1回受講したものと換算されます。1講演のみの聴講、また現地、オンデマンドそれぞれ1講演ずつの受講での単位取得はできません。

※正会員のみ受講を受け付けます。

※日本リハビリテーション医学会会員以外への受講証明書発行はできません。

※指導医講習会では認定臨床医受験資格の単位は取得できません。

■現地参加の場合

(1) 事前単位申込み

・学術集会HP「各種単位のお申込み」よりお申込み・お支払いを行ってください。

(2) 受講カードの受け取り

単位受付（パシフィコ横浜 会議センター 3F ホワイエ）にて、申込み済みの指導医講習会受講カード・受講証明書を講習会開始前までにお受け取りください。

(3) 受講カードの提出

受講カードに必要事項をご記入のうえ、講演終了時に、受講した会場の回収箱に提出してください。受講カードの提出がない場合、単位は認定されません。複数の受講カードを同じ回収箱に提出した場合は、1枚のみが有効となります。

※受講カード・受講証明書の再発行はできません。

※受講証明書はご自身で大切に保管してください。

■オンデマンド配信視聴の場合

(1) 単位申込み

・学術集会HP「各種単位のお申込み」よりお申込み・お支払いを行ってください。

(2) オンデマンド配信サイトへログインし、必ず期間内に視聴を完了してください。

オンデマンド配信期間：2026年11月18日（水）～12月18日（金）

(3) 単位申込みおよび決済と、オンデマンド配信動画視聴履歴が確認できましたら単位付与となります。

■2026年10月30日（金）第8会場（パシフィコ横浜 会議センター 4F 411+412会議室）

時間	種別	演題名	演者
15:35～16:35	指導医講習会1	リハビリテーション科領域の研修における指導医の役割と実践	芳賀 信彦
16:45～17:45	指導医講習会2	指導医のための臨床研究指導戦略 — 専攻医教育の視点から —	百崎 良

「生涯教育研修」の単位認定について

本学術集会において取得できる、専門医・認定臨床医の生涯教育単位は以下のとおりです。

1. 学術集会参加：リハビリテーション科専門医2単位、認定臨床医20単位

リハビリテーション科専門医および日本リハビリテーション医学会認定臨床医は、資格更新に必要な学術集会参加の単位を取得できます。なお、認定臨床医受験資格の単位は取得できません。

■現地参加の場合

学術集会HPからオンライン参加登録をしたうえで、当日参加受付にてネームカードを発券してください。ネームカードの発券完了を以て参加単位を付与いたします。参加証明書は、オンライン参加登録サービスカウンターからご自身でダウンロードして保管してください。各種発行方法と発行期間については、S22「6. ネームカード・参加証明書・領収書の発行について」をご参照ください。

■オンデマンド配信視聴の場合

いずれかのセッション視聴後に自動で参加単位が付与されます。

参加証明書は、オンライン参加登録サービスカウンターからご自身でダウンロードして保管してください。各種発行方法と発行期間については、S22「6. ネームカード・参加証明書・領収書の発行について」をご参照ください。

2. [リハビリテーション科専門医] 専門医共通講習、教育研修講演：1講演 1単位

リハビリテーション科専門医は、資格更新に必要な単位のうち「専門医共通講習」および「リハビリテーション科領域講習」に算出できる単位を、合計1日で最大7単位／3日間で最大21単位まで取得できます（専門医共通講習の単位が優先されます）。

1時間（以上）の1講演が連続して2名以上の演者で行われる場合は、すべての演者の講演を聴講した場合に取得できます。現地参加、オンデマンド視聴、またはその併用に関わらず、1日あたりの単位取得上限は7単位となります。

※1日に7単位を超えた場合、超過分は切り捨てられます。

本学術集会における対象講演の種別は以下のとおりです。

・「専門医共通講習」：専門医共通講習会

・「リハビリテーション科領域講習／教育研修講演」：

会長講演、特別講演、文化講演、教育講演、挑・超あすなろ講演、医師&専門職調うセミナー、医師&専門職調うシンポジウム、挑・超・調企画シンポジウム、合同シンポジウム、男女共同参画シンポジウム、ジョイント講演、ランチョンセミナー、スイーツセミナー、指導医講習会（2講演受講必須）

なお、新専門医制度における、日本専門医機構認定専門医としての更新に関しては、日本リハビリテーション医学会ホームページ（「新専門医制度について」の中の「リハビリテーション科専門医更新基準について」）を参照してください。

本学術集会において取得できる、専門医・認定臨床医の生涯教育単位は以下のとおりです。

講演種別		受講料	受講カード
専門医 共通講習	専門医共通講習会	1,000円／ 1講演	専門医共通講習受講カード ・医療倫理、医療安全、感染対策（緑色） ・医療制度と法律、地域医療、医療福祉 制度、医療経済、両立支援（青色） ・臨床研究・臨床試験（紫色）
領域講習 (教育研修講演)	会長講演、特別講演、文化講演、教育講演、挑・超あすなろ講演、医師&専門職調うセミナー、医師&専門職調うシンポジウム、挑・超・調企画シンポジウム、合同シンポジウム、男女共同参画シンポジウム、ジョイント講演、ランチョンセミナー※、スイーツセミナー	1,000円／ 1講演	専門医（白色）
	指導医講習会	2,000円／ 2講演	指導医講習会受講カード（グレー）

※単位の申込みは、共催セミナーの座席、弁当の確保を保証するものではありません。必要な方は、学術集会参加登録画面にて、ランチョンセミナーにお申込みをお願いいたします。

3. [認定臨床医・認定臨床医受験資格者] 教育研修講演：1講演 10単位

日本リハビリテーション医学会認定臨床医、および認定臨床医試験受験を検討中の方は、3日間で最大100単位まで取得することが可能です。

1時間（以上）の1講演が連続して2名以上の演者で行われる場合は、すべての演者の講演を聴講した場合に取得できます。

本学術集会における対象講演の種別は以下のとおりです。

会長講演、特別講演、文化講演、教育講演、挑・超あすなろ講演、医師&専門職調うセミナー、医師&専門職調うシンポジウム、挑・超・調企画シンポジウム、合同シンポジウム、男女共同参画シンポジウム、ジョイント講演、ランチョンセミナー、スイーツセミナー、指導医講習会（認定臨床医のみ、2講演受講必須）

※専門医共通講習会では、認定臨床医・認定臨床医受験資格の単位は取得できません。

※指導医講習会では、認定臨床医受験資格の単位は取得できません。

講演種別	受講料	受講カード
会長講演、海外招待講演、特別講演、教育講演、特別企画、シンポジウム、ランチョンセミナー※、スイーツセミナー	1,000円／ 1講演	認定臨床医：白色 認定臨床医受験資格者：オレンジ色
指導医講習会	2,000円／ 2講演	指導医講習会受講カード（グレー）

※単位の申込みは、共催セミナーの座席、弁当の確保を保証するものではありません。必要な方は、学術集会参加登録画面にて、ランチョンセミナーにお申込みをお願いいたします。

■現地参加の場合

(1) 事前単位申込み

学術集会HP「各種単位のお申込み」よりお申込み・お支払いを行ってください。

(2) 受講カードの受け取り

単位受付（パシフィコ横浜 会議センター 3F ホワイエ）にて、申込み済みの受講カード・受講証明書を講習会開始前までにお受け取りください。

(3) 受講カードの提出

受講カードに必要事項をご記入のうえ、講演終了時に、受講した会場の回収箱に提出してください。受講カードの提出がない場合、単位は認定されません。複数の受講カードを同じ回収箱に提出した場合は、1枚のみが有効となります。

※受講カード・受講証明書の再発行はできません。

※受講証明書はご自身で大切に保管してください。

■オンデマンド配信視聴の場合

(1) 単位申込み

学術集会HP「各種単位のお申込み」よりお申込み・お支払いを行ってください。

(2) オンデマンド配信サイトへログインし、必ず期間内に視聴を完了してください。

オンデマンド配信期間：2026年11月18日（水）～12月18日（金）

(3) 単位申込みおよび決済と、オンデマンド配信動画視聴履歴が確認できましたら単位付与となります。

日本リハビリテーション医学会以外の単位について

本学術集会では、以下の学会・単位の取得が可能です。詳細は各学会・団体のホームページなどでご確認ください。

1. 日本整形外科学会 教育研修講演 1 講演：1 単位 (1,000 円)

※現地参加・オンデマンド視聴いずれでも取得可能です。

一部のプログラムは、日本整形外科学会の教育研修講演に認定されています。3日間で最大21単位（そのうち、オンデマンド視聴で取得できるのは最大12単位）まで取得できます。なお、2名演者のプログラムは、すべての演者の講演を聴講した場合に1単位取得できます。

■現地参加の場合

(1) 単位事前申込み

・事前に学術集会HP「各種単位のお申込み」よりお申込み・お支払いを行ってください。

(2) 受講準備

・JOINTS アプリまたはWeb サイト (<https://joints.joa.or.jp/>) でJOINTS にログインし、QRコードを表示してください。

(3) 出席登録

・講演会場前のQRコードリーダーにてQRコードを読み込み、出席登録を行ってください。

・講演開始10分前から10分後までに登録を行ってください。

・出席登録の際、PC画面上でご自身のお名前が表示されたことを確認してください。

※受講申込みをしても会場での出席登録が行われていなかったり、申込みと異なるプログラムで登録された場合は、単位は付与されません。

※単位申込みと出席登録の両方が完了している方のみ単位が認定されます。受講前に必ず単位申込み内容と会場・受講プログラムをお確かめください。

■オンデマンド配信視聴の場合

(1) 単位申込み

学術集会HP「各種単位のお申込み」よりお申込み・お支払いを行ってください。

(2) オンデマンド配信サイトへログインし、必ず期間内に視聴を完了してください。

オンデマンド配信期間：2026年11月18日（水）～12月18日（金）

(3) 単位申込みおよび決済と、オンデマンド配信動画視聴後に表示される設問に合格の履歴が確認できましたら単位付与となります。

2. 日本医師会 認定産業医研修会

※現地参加でのみ単位取得可能です。 ※ 10月21日（水）までに事前予約が必要です。

一部のプログラムは日本医師会認定産業医制度における生涯研修会として認定されています。

(1) 申込み

単位を取得するには、期限までに学術集会HP「各種単位のお申込み」より単位申込を済ませる必要があります。

【申込期限】10月21日(水)

※当日、会場での申込みはできません

※期限前であっても定員に達した場合は申込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

(2) 講演会場での手続き

単位受付(パシフィコ横浜 会議センター 3F ホワイエ)で受講カード・受講証明書をお受け取りください。

受講カードに必要事項をすべてご記入の上、講演終了時に受講した会場の回収箱に提出してください。受講カードの提出がない場合は単位認定できません。

※遅刻・早退をされた方は単位認定できません。

※受講カード・受講証明書の再発行はできません。

※登録・更新などの詳細は、日本医師会へお問合せください。

日付	種別	時間	演題名	演者
10月29日(木)	教育講演3	15:40~16:40	がん治療と生活の両立を支える リハビリテーション診療の専門性	辻 哲也
10月30日(金)	専門医共通講習 会4 (医療安全)	10:50~11:50	医療における活動性向上と転倒予防	宮越 浩一
10月31日(土)	専門医共通講習 会8 (両立支援)	13:10~14:10	治療と仕事の両立支援の実践と医療の役割	豊田 章宏

3. 日本医師会 生涯教育制度学習単位

※現地参加でのみ単位取得可能です。

日本医師会会員の方は、演題ごとに受講内容に応じた1カリキュラムコードと単位の取得が可能です。

どの領域を何時間学習されたかご自身で申告してください。

<単位とカリキュラムコード>

■カリキュラムコード(CC)

・「日本医師会生涯教育カリキュラム<2016>2022年4月版」で定める、学習領域を示す84の項目。

・講演内容に応じ、受講者自身が演題ごとに1つのCCを決定してください。

例：糖尿病の内容 = CC76(糖尿病)

■単位

・学習時間を示すもの。30分 = 0.5単位とする。

・1日の上限はありません。式典、休憩等、講演以外の時間は受講時間には含まれません。

例：糖尿病の内容の講演を合計3時間受講した = CC76を3単位

<受講を証明するもの>

学術集会の参加証明書(写しでも可)

<申告受付期間>

2027年3月1日(月)～4月30日(金)

4. 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士・健康運動実践指導者登録更新履修単位

本学術集会は、健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士・健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位として、講義3.0単位が認められます(認定番号:266640)。

■現地参加の場合

ネームカード発券後、登録番号が確認できる「健康運動指導士証」または「健康運動実践指導者証」を単位受付窓口にご提示の上、認定講習会受講証明書交付者一覧表に登録番号と氏名をご記入ください。お渡しする「受講証明書」は登録更新申請までご自身で保管してください。

■オンデマンド配信視聴の場合

学術集会から3か月以内に、本学術集会の参加証明書のコピーを含む単位認定に必要な書類を健康・体力づくり事業財団へ送付してください。

※受講証明書の再発行はできません。

※登録・更新などの詳細は、健康・体力づくり事業財団へお問合せください。

5. 日本スポーツ協会 公認スポーツドクター 更新研修

※現地参加でのみ単位取得可能です。

一部のプログラムは、日本スポーツ協会の公認スポーツドクター更新研修として認定されています。

ご自身のスポーツ指導者マイページにて更新研修受講状況をご確認の上、対象セッションを合計4時間(240分)以上聴講してください。講演に遅刻もしくは途中退出した場合、その講演については聴講時間にはカウントされませんのでご注意ください。

当日、単位受付窓口にて「修了者名簿」に氏名・7桁の登録番号をご記入の上、「出席確認カード」をお受け取りください。「出席確認カード」に必要事項をご記入の上、参加証明書の写しとあわせて日本スポーツ協会にご自身で提出してください。

提出期限:2026年11月23日(月)

提出先メールアドレス:drat-kakunin@japan-sports.or.jp

※出席確認カードの再発行はできません。

※登録・更新などの詳細は、日本スポーツ協会へお問合せください

■2026年10月29日(木)

種別	時間	演題名	演者
特別講演2	14:50～15:20	投げ続けるために肘を守る～学童からプロまで野球肘の現状と課題～	富田 一誠
	15:20～15:50	投球障害肩に対する理学療法	千葉 慎一

■ 2026年10月30日(金)

種別	時間	演題名	演者
医師&専門職 調うセミナー6	10:50～11:50	体幹深部筋の機能評価と再教育	岡岡 恒治
教育講演17	15:35～16:35	スポーツを通じた共生(インクルーシブ)社会の実現 — 国内の取り組みと今後の展望 —	牛尾 会

■ 2026年10月31日(土)

種別	時間	演題名	演者
教育講演25	9:40～10:40	ケガを防ぎ、最高のパフォーマンスへ — サッカー現場におけるメディカルサポートの実践 —	池田 浩
挑・超・調 企画シンポジウム13	10:20～10:35	多様な生き方を支えるパラスポーツ医学 ～次世代の育成とライフイベントの両立～	上出 杏里
	10:35～10:50	理学療法士という資格をいかしたパラスポーツへの関わり方	永盛 雅子
	10:50～11:05	パラスポーツ参加と継続の難しさと必要な支援について ～パラスポーツを日常的に行う一当事者の立場から～	高安 薫実
	11:05～11:20	転んでも大丈夫・スポーツ用義肢製作の35年	臼井二美男

6. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 1講演：5単位

※現地参加でのみ単位取得可能です。

以下のプログラムは、日本摂食嚥下リハビリテーション学会の認定士単位セミナーとして認定されています。受講後、単位受付窓口にて単位セミナー参加証を取得してください。

日付	種別	時間	演題名	演者
10月30日(金)	教育講演10	15:35～16:35	嚥下・呼吸・口腔機能から考える誤嚥性 肺炎予防 — リハビリテーション医学の実践と多職 種連携 —	海老原 覚
10月31日(土)	教育講演 23	14:20～15:20	その嚥下障害、手術で変わるのか — 摂食嚥下障害に対する外科的治療の適応 判断 —	木村百合香

7. その他、学術集会への参加、発表などにより単位取得可能な学会・団体について

単位申請は、各学会・団体にご確認のうえ、ご自身で行ってください。

学会・団体名	
日本看護協会(認定看護師自己研鑽ポイント)	日本緩和医療学会
日本義肢装具士協会(生涯学習システム単位)	日本言語聴覚士協会
日本作業療法士協会	日本小児神経学会
日本神経学会	日本心臓リハビリテーション学会
日本腎臓リハビリテーション学会	日本頭痛学会
日本生活期リハビリテーション医学会	日本認知症ケア学会
日本脳卒中学会	日本リウマチ学会
日本臨床神経生理学会	日本老年医学会
日本老年精神医学会	

単位取得可能な講演一覧

日本リハビリテーション医学会と日本整形外科学会の単位対象セッションは以下の通りです。
詳細および他学会の単位情報については、S31～S34をご確認ください。

なお、日本リハビリテーション医学会および日本整形外科学会の単位は、一部の講演を除き、
現地参加のほか、2026年11月18日(水)～12月18日(金)のオンデマンド配信でも取得可能です。
下記表の※印のセッションは、オンデマンドでは単位取得できません。

■ 2026年10月29日(木)

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	リハ単位	日整会
10:10～11:10	1	会長講演		至誠一貫、まことのみんなの幸いのために — 挑み、超え、調えるリハビリテーション医学 —	川手 信行	●	13,Re
11:20～12:20	1	特別講演1		アルツハイマー病 — 病態理解から読み解く新しい医療の可能性 —	小野賢二郎	●	
	2	教育講演1		ヒトはなぜ合理的合目的に動けるのか	佐々木信幸	●	1,Re
	3	教育講演2		Hospitalization-Associated Disabilityの予防とリハビリテーション医療	高橋 哲也	●	
12:30～13:30	1	ランチョンセミナー1	慢性期外傷性脳損傷への挑戦 — 再生医療がもたらす新たな可能性 —	外傷性脳損傷に挑む新たな細胞治療薬バンデフィテムセル: その作用機序とエビデンス構築の歩み 再生医療とのシナジーが期待されるニューロモデュレーション技術のトピックス	金 恭平 川上 途行	●	
	1	文化講演1		喪失による傷つきからの回復に必要なかわり ～Safety/challenge/Hope～	副島 賢和	●	
13:40～14:40	6	挑・超 あすなろ講演1		ニューロリハビリテーションのトピックス: 小児領域の展開	川上 途行	●	
	7	医師&専門職 調うセミナー1		眼球運動障害のリハビリテーション治療	渡部 喬之	●	
13:40～15:10	2	挑・超・調 企画シンポジウム2	サルコペニア・フレイルへの挑・超・調	フレイル・サルコペニアの病態と疫学 骨格筋の可塑性から描くサルコペニア・フレイルのグランドデザイン — 運動・栄養介入から社会実装へ — 口腔機能管理とリハビリテーション医療の接続 サルコペニア・フレイル患者の機能回復を支える栄養管理 運動でロコモ・フレイル・サルコペニアは防げるか	小川 純人 町田 修一 古屋 純一 宇野 千晴 沢谷 洋平	●	
	3	合同 シンポジウム1 (パラスポーツ委員会)	ミラノ・コルティナ2026冬季パラ スポーツ国際競技大会を支えたリ ハビリテーション支援の実際と未来	ミラノ・コルティナ2026冬季パラスポーツ国際競技大会までの競技活動と今後 ミラノ・コルティナ2026冬季パラスポーツ国際競技大会における医療活動とパラスポーツにおける医学的支援について ミラノ・コルティナ2026冬季パラスポーツ国際競技大会におけるトレーナー活動 冬季競技における機器開発の歴史 選手の発掘・育成に向けた普及活動	新田 佳浩 小林 章郎 笹代 純平 辻村 和見	●	
	4	挑・超・調 企画シンポジウム5	重症患者に対するリハビリテーション診療の挑・超・調	リハビリテーション科専門医による高度救命救急センターにおける包括的急性期脳卒中診療 意識障害患者のリハビリテーション診療 PICSのリハビリテーション診療 — 早期離床から退院後支援までをどうつなぐか — 超急性期から生活期までを貫くリハビリテーション診療	山内 利宏 新見 昌央 竹原 慧 幸田 剣	●	
	5	専門医共通 講習会1	感染対策 (A)	COVID-19 から学ぶ医療 — この経験を未知のパンデミックにつなぐ —	平田 知大	●	
	1	特別講演2	投げ続けるための医療 — スポーツ障害の予防と健康管理を再考する —	投げ続けるために肘を守る ～ 学童からプロまで野球肘の現状と課題～ 投球障害肩に対する理学療法	富田 一誠 千葉 慎一	●	2,9,S
	6	挑・超 あすなろ講演2	リハビリテーション科医としての専門性とは	回復期における癌縮治療への挑戦 — SMDの視点から考えるチーム医療 —	杉山みづき	●	
	7	医師&専門職 調うセミナー2		発音が気になる子どもに出会ったとき — 多職種で共有したいチェックポイント —	武井 良子	●	
	5	スイーツ セミナー1		姿勢と運動から考える小児リハビリテーションの新展開 — 脳性まひ児とダウン症のある子どもの生活を支える実践 —	真野 英寿	●	3,13,Re

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	リハ単位	日整会
15:25～16:55	2	挑・超・調 企画シンポジウム3 (日本スティミュレーションセラピー学会共同)	脳卒中後遺症に対するスティミュレーションセラピーの挑・超・調	当院における脳卒中後上肢麻痺に対するStimulation Therapy	漆谷 直樹	●	
				脳卒中後嚥下障害に対するStimulation Therapy：神経筋電気刺激 (NMES) の可能性	小林健太郎		
				失語症に対するスティミュレーションセラピー	小原 健輔		
				脳卒中後歩行障害に対するスティミュレーションセラピー	久保田雅史		
15:40～16:40	4	合同 シンポジウム2 (日本難病リハビリテーション研究会)	神経難病における在宅リハビリテーションの現在とみらい・地域実践の深化に向けて	ALS患者の地域在宅移行を支える取り組み～専門医療機関から地域へ何を伝えるか～	工藤早栄子	●	
				「食べることは生きること」を支える 難病・訪問リハビリテーション ― ICF×主観的次元・車窓モデル―	川俣 悠平		
				居宅介護支援事業所へのアンケート結果からみる在宅神経難病患者へのリハビリテーション治療の課題	中馬 孝容		
16:00～17:00	3	教育講演3		がん治療と生活の両立を支えるリハビリテーション診療の専門性	辻 哲也	●	5,13,Re
	1	特別講演3		0からの軌跡 ― 生活を支える医療への挑・超・調	水間 正澄	●	
	6	挑・超 あすなろ講演3		臨床×研究×教育の三位一体の活動に挑む！	蜂須賀明子	●	
	7	医師&専門職 調うセミナー3		ICUにおける作業療法の役割と実践：生活期を見据えた包括的支援	駒場 一貴	●	13,Re
16:30～17:30	5	専門医共通講習会2	医療倫理 (A)	障害児者当事者と家族に向き合う医療倫理 ― 倫理的配慮と合理的配慮をめぐって ―	大屋 滋	●	
17:10～18:40	1	挑・超・調 企画シンポジウム1 (CORABOSS 共同)	脳卒中歩行再建 現在・過去・未来 ― 先人たちが歩んだ道と新たな挑戦 ―	歩行再建で私が歩んだ道 ― 長下肢装具後方介助歩行訓練の誕生と未来への提言―	吉尾 雅春	●	
				脳卒中歩行再建のための歩行分析の過去・現在・未来	山本 澄子		
				脳卒中歩行再建 ～痙縮治療・SMD対策の過去・現在・未来～	勝谷 将史		
	2	挑・超・調 企画シンポジウム4	回復期リハビリテーション医療の四半世紀の挑・超・調	回復期リハビリテーション医療における生活再建 ― 医師の立場から ―	岡本 隆嗣	●	
				理学療法士の視点から	松田 徹		
				回復期リハビリテーション医療を管理する作業療法士の立場として	川野 将広		
				回復期リハビリテーション病棟における言語聴覚士の役割と課題	井上 典子		
	3	男女共同参画 シンポジウム	リハビリテーション医療における キャリア形成と専門性の再考 ― 多様な働き方と役割選択の構造に着目して ―	回復期リハビリテーション病棟のソーシャルワーカーの立場から	玉井 智	●	
				医療親とキャリア志向に関するアンケート調査―中間報告―	杉山みづき		
				迷いながら育てられたキャリア ―地域で育ち、家族に支えられ、人を育てる側へ―	梅本 安則		
				リハビリテーション科医として幸せな人生を歩む ～後期研修医の視点から～	関根希和子		
				リハビリテーション科医に必要なキャリアとしての急性期・回復期・生活期	大高 恵莉		
				リハビリテーション科医が動物モデル基礎研究を担う意義	廣畑 俊和		
	4	合同 シンポジウム3 (全国リハビリテーション学校協会)	セラピスト教育の新たな展開 ― 卒前・卒後の連続した教育―	卒前卒後のシームレスな教育について	渡部 喬之	●	
				慈恵医大レジデント理学療法士・作業療法士制度の役割と期待	中山 恭秀		
				コンピテンシー基盤型教育からみたセラピストの卒前教育	木村 大輔		
				言語聴覚士の卒前・卒後教育	深浦 順一		
17:10～18:10	6	挑・超 あすなろ講演4		作業療法士養成校における総合実習前後のOSCE	五味 幸寛	●	13,Re
	7	医師&専門職 調うセミナー4		子どもの「できる」を広げ、領域を超えて支援するリハビリテーション医学	藤原 清香		
				サルコペニア・フレイルを“診る”・“支える”	山田 実		
17:40～18:40	5	専門医共通講習会3	医療制度と法律 (B)	診療報酬から読み解く医療の現在地と未来	木下 翔司	●	

■ 2026年10月30日(金)

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	リハ単位	日整会
8:30～9:30		1	教育講演4	リハビリテーション診療におけるDX	大高 洋平	●	13,Re
		4	教育講演5	上肢機能回復への挑・超 ―VRとロボットが拓くリハビリテーション治療の新戦略―	内山 侑紀	●	
		5	教育講演12	心不全診療を支える心臓リハビリテーション ―急性期から長期予後まで―	磯 良崇	●	
		6	挑・超 あすなろ講演5	嚥下機能の定量化への挑戦	新井 伸征	●	
				嚥下機能の定量化への挑戦	山本五弥子		

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	リハ単位	日整会
8:30~10:00	2	挑・超・調 企画シンポジウム6	リハビリテーション科開業の挑・超・調	リハビリテーション科医としての開業 —私の場合—外来に特化したモデル	白石純一郎	●	
				リハビリテーション科医が町医者を継承開業して外来・訪問・通所リハビリテーションを営む	沖井 明		
				リハビリテーション科医師による居場所づくり ～医療的ケア児・重症心身障害児に向けて～	山下 愛茜		
				地域に根ざした外来・訪問・通所の三位一体モデルの実践：山王リハビリ・クリニックの取り組み	森 逸平		
	3	挑・超・調 企画シンポジウム10	整形外科領域のリハビリテーション医療の未来戦略への挑・超・調	脊髄損傷に対するリハビリテーション治療の未来戦略	柏川 雄司	●	
				骨粗鬆症の未来戦略と運動療法	青木 隆明		
8:30~10:30	7	医師&専門職 調うシンポジウム1	摂食嚥下多職種チームは、リハビリテーション科医に何を望んでいるのか。 —「指示する医師」から「ともに調える医師」へ—	上肢・手指外傷の未来戦略	尼子 雅敏	●	
				股関節疾患に対する未来戦略	坂井 孝司		
				摂食嚥下障害のリハビリテーション医療において言語聴覚士がリハビリテーション科医に求める役割	畠山 恵		
				食べることに挑む多職種チームの中での看護師	丹藤 淳		
				摂食嚥下支援とともに調える	熊谷 直子		
				—急性期から生活期をつなぐ管理栄養士の視点—	齋藤 真由		
9:40~10:40	1	特別講演4	新地域医療構想と地域医療の未来-医療提供体制はどう変わるのか-	生活につながる口腔機能を支えるためにリハビリテーション科医に期待すること—歯科医師の立場から—	西嶋 康浩	●	14-5
				運動器腫瘍に対する機能再建とリハビリテーション戦略—周術期から生活期まで—	城戸 顕		
				脳卒中急性期のリハビリテーション治療	梅本 安則		
				先進的なニューロリハビリテーション治療への挑戦	谷 真美		
				運動器腫瘍に対する機能再建とリハビリテーション戦略—周術期から生活期まで—	城戸 顕		
				脳卒中急性期のリハビリテーション治療	梅本 安則		
10:10~11:40	2	挑・超・調 企画シンポジウム7	栄養とリハビリテーション治療の挑・超・調	リハビリテーション効果を最大化する栄養マネジメント：医師が導く多職種連携の「調和」	藤原 大	●	
				食べない、痩せる、そんな時どうする？低栄養を乗り越える栄養介入戦略	上島 順子		
				リハビリテーションアプローチの効果を支える栄養サポートへの挑戦	最上谷拓磨		
				薬からみる栄養と身体機能回復の調和	松崎 貴志		
	3	合同 シンポジウム4 (日本小児リハビリテーション医学会)	生活期を生きる子どもと家族に、私たちはどう挑み、超え、調えるのか。 —次世代から考える小児リハビリテーション医療—	医療が生活期に挑む —重症児・医療的ケア児に対する継続的支援の最前線— 小児専門病院の立場から	真野 浩志	●	
				成長発達を超えて支える小児リハビリテーション—移行期医療とライフステージ支援—	土岐めぐみ		
10:50~11:50	1	文化講演2	AIは「その人らしさ」を支えられるのか —Deepfake Voiceを起点としたリハビリテーション支援の可能性—	子どもの『生活』を調える作業療法の役割 —学校・家庭・地域をつなぐ支援—	竹中佐江子	●	
				地域で育ち続ける子どもを支える —多職種連携と生活期支援モデルの実践—	杉山 智子		
				AIは「その人らしさ」を支えられるのか —Deepfake Voiceを起点としたリハビリテーション支援の可能性—	CANCEMI GIORGIO		
				高次脳機能障害者支援法がもたらす未来	渡邊 修		
				痙攣運動障害 (SMD) への包括的治療戦略	長谷 公隆		
				医療における活動性向上と転倒予防	宮越 浩一		
12:05~13:05	1	ランチョン セミナー2	体幹深部筋の機能評価と再教育	遷延性意識障害患者のリハビリテーション医療 —NASVA療養センターの役割と実績—	金岡 恒治	●	13,Re
				痙攣マネジメントを再考する—下肢の用法・用量変更がもたらす臨床への変化—	重松 孝		
				リハビリテーション診療における末梢磁気刺激	加賀谷 斉		
				今こそやろう。心不全への心臓リハビリテーション	村田 誠		
				リハビリテーション病院における運動器疾患治療の最前線	平泉 裕		
				脊髄損傷患者に対する新しい幹細胞製剤	本望 修		
13:15~14:15	4	教育講演8	サルコペニアだけでは語れない フレイル—栄養・姿勢・Standing SADから考える新しい身体評価—	パーキンソン病はどこまで改善するのか —エビデンスで読み解くリハビリテーション医療の最前線—	永井 隆士	●	4,13,Re
				臨床医のための研究立ち上げと支援体制の実際 —研究をどう始めるのか—	三邊 武彦		
				サルコペニアだけでは語れない フレイル—栄養・姿勢・Standing SADから考える身体評価—	永井 隆士		
				臨床医のための研究立ち上げと支援体制の実際 —研究をどう始めるのか—	三邊 武彦		

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	リハ単位	日整会
13:15～14:45	2	挑・超・調 企画シンポジウム8	生成AIが開くリハビリテーション医療の挑・超・調	生成AIがどこまでリハビリテーション医療の現場を変えうるか —小さい意思決定から始める臨床活用—	海津 陽一	●	
				生成AIを活用したリハビリテーション介入支援の可能性	澤村 彰吾		
				生成AIはどこまで進歩するのか	尾崎 尚人		
				AIによる機能回復および活動性向上予測の可能性と課題	白坂 智英		
	3	挑・超・調 企画シンポジウム11 (日本JRAT共同)	東日本大震災から15年・災害リハビリテーション医療・支援の挑・超・調	東日本大震災からはじまったJRATの組織づくり概説とこれから	栗原 正紀	●	
				熊本地震から学んだJRATの実践、そして、未来へ	田代 桂一		
				毎年の猛威・豪雨・台風による地域限定型災害での地域JRAT活動	菊地 尚久		
				令和6年 能登半島地震におけるJRAT支援活動と問題点について	松下 功		
13:15～15:15	7	医師&専門職 調うシンポジウム2	少子化を追い風に変えるリハビリテーション専門職の力 —PT・OT・ST・POの未来構想—	理学療法士の未来構想 社会保障人材としての価値創造と持続可能なリハビリテーション医療の国家戦略化	斉藤 秀之	●	
				こども支援と認知症施策における今と未来構想～日本作業療法士協会会長の立場から～	山本 伸一		
				少子化を追い風に変えるリハビリテーション専門職の力	内山 量史		
				一言語聴覚士の立場から考える未来構想— 少子化を追い風に変える義肢装具士の力	東江由起夫		
14:20～15:20	1	特別講演6	障害のある人の社会参加と主体性 —全介助事例に学ぶ『ポジティブスイッチ』と生活再構築のメカニズム—	1ミリも動けない絶望から「生活の経営者」へ—社会参加と主体性を実現するポジティブスイッチの入れ方	澤邊 芳明	●	14-5
				障害のある人の社会参加—実臨床に役立てたい運動FIM13の事例に学ぶ主体性獲得と生活マネジメントの分析—	和田 真一		
14:25～15:25	4	教育講演9		その痛みは、なぜ続くのか — 病態と修飾因子から考える痛みに対するリハビリテーション治療 —	坂本 淳哉	●	13,Re
	5	教育講演16		生活期リハビリテーション医療における治療体系化の見える化 — 何を、どこまで、どのように行うのか —	三上 幸夫	●	13,Re
	6	専門医共通講習会6	医療福祉制度 (B)	医療・介護・障害福祉制度をつなぐ実践 — 現場から考える意思決定支援の実践 —	井上 健朗	●	
15:00～16:00	2	スイーツ セミナー2		大学病院における先端機器の幅広い活用 ～保険診療から自由診療まで～	川上 途行	●	13,Re
				生体信号反応式運動機能改善装置による海外展開と保険外のリハビリテーション支援	安永 好宏		
	3	スイーツ セミナー3		『セラピスト+α』で生き抜く次世代のキャリア戦略 ～自ら選ぶ多様な挑戦～	梅村 将成 松本 泉 酒井 謙司 三浦 貴磨 高野 富也 田中麻奈美	●	
15:30～16:30	1	特別講演7		歩行を支える知の進化 — 脳卒中下肢装具「これまで」と「これから」—	山本 澄子	●	13,Re
15:35～16:35	4	教育講演10	嚥下・呼吸・口腔機能から考える誤嚥性肺炎予防 — リハビリテーション医学の実践と多職種連携 —	嚥下・呼吸・口腔機能から考える誤嚥性肺炎予防 — リハビリテーション医学の実践と多職種連携 —	海老原 覚	●	
	5	教育講演17		スポーツを通じた共生 (インクルーシブ) 社会の実現 — 国内の取り組みと今後の展望 —	牛尾 会	●	13,Re
	6	挑・超 あすなろ講演7		「挑」の文化が限界を「超」える — 自律を促す成長の場づくりの実践 —	吉田健太郎	●	
	7	医師&専門職 調うセミナー7		前庭障害のリハビリテーション医療	加茂 智彦	●	
	8	指導医講習会1		リハビリテーション科領域の研修における指導医の役割と実践	芳賀 信彦	●	
16:15～17:45	2	挑・超・調 企画シンポジウム9	地域包括ケアシステムの挑・超・調	地域包括ケアは障害者・重度障害者を本当に包摂できているのか?	菊地 尚久	●	
				都市型地域包括ケアにおける回復期リハビリテーション病棟の役割と課題	近藤 国嗣		
16:40～17:40	3	医師&専門職 調うセミナー5		地域包括ケアシステムはどのように機能しているか	堀田富士子	●	
				高次脳機能障害に対する地域包括ケアシステム	駒井由起子		
16:45～17:45	4	教育講演11	ICFをリハビリテーション診療で活用するには — 活動を共有できる診断・評価ツールとしてどう使うか —	色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン	岡部 正隆	●	13,Re
				脳卒中歩行再建における運動の質 (movement quality)	大畑 光司		
				International Classification of Functioning, Disability and Healthをリハビリテーション診療で活用するには — 活動を共有できる診断・評価ツールとしてどう使うか —	向野 雅彦	●	

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	リハ単位	日整会
16:45～17:45	5	教育講演18	急性期リハビリテーションの基本 とICUでの応用 —多職種連携とリハビリテーション 医の役割—	急性期リハビリテーション医療の基本とICUでの 応用 —多職種連携とリハビリテーション科医の役割—	山内 克哉	●	
	6	挑・超 あすなろ講演8		意識障害のリハビリテーション治療の挑戦	和田 義敬	●	
	7	医師&専門職 調うセミナー8		装具を使用する脳卒中片麻痺者に対する行うべき 支援とは —装具支援格差は入院中から始まっていた—	久米 亮一	●	13.Re
	8	指導医講習会2		指導医のための臨床研究指導戦略 —専攻医教育の視点から—	百崎 良	●	

■2026年10月31日(土)

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	リハ単位	日整会
8:30～9:30	1	特別講演9		在宅で育つ医療的ケア児の挑・超・調 —家族とともにあゆむ医療と支援—	中村 知夫	●	3.Re
	4	教育講演19		脊髄損傷の摂食嚥下障害 —病態理解から新規治療戦略まで—	山本五弥子	●	7.13.SS
	5	教育講演24		歩行障害に対する新しいリハビリテーション治療	藤原 俊之	●	13.Re
	6	挑・超 あすなろ講演9		臨床の気づきから始まった挑戦：リハビリテーション 診療におけるカルニチン欠乏症	上野 真	●	
	7	医師&専門職 調うセミナー9		PT・OT・STのキャリアは“創る時代”へ ～経営視点で、組織を動かし、未来を切り拓くセラ ピストへ～	京藤 聡弘	●	
8:30～10:00	2	挑・超・調 企画シンポジ ウム12	保険外リハビリテーションの挑・ 超・調 医師とセラピストの関係	医師と理学療法士の協働による攻めの予防医療と予 防・健康増進	佐々木嘉光	●	
				療法師における保険外リハビリテーションとの連携 —医療機関の理学療法士の立場から—	高橋 忠志		
				大学病院内の自由診療におけるリハビリテーション 科医師の役割	川上 途行		
	3	挑・超・調 企画シンポジ ウム14	痙縮治療への挑・超・調	大学附属自由診療クリニックにおける臨床の実際 ボツリヌス治療、装具療法によるSMDの治療戦略	森 直樹 勝谷 将史	●	
				痙縮治療への挑・超・調 —ボツリヌス療法とITB療法による新たな治療戦 略—	竹林 成典		
9:40～10:40	1	特別講演10		月を目指す医学、地域を支える医学 ～宇宙医学運用と生活期リハビリテーション医療が 拓く未来～	速水 聡	●	13.Re
				運動器疾患に対するリハビリテーション医療 —機能回復から活動・参加へ—	宮本 健史	●	
				ケガを防ぎ、最高のパフォーマンスへ —サッカー現場におけるメディカルサポートの実 践—	池田 浩	●	
				急性期・回復期から生活期へ：持続可能な医療・介 護システムの実現に向けて	石田由佳子	●	
				最先端テクノロジーを脳卒中後上肢運動障害のリハ ビリテーション医療にいかにか活かすのか	竹林 崇	●	
10:20～11:50	2	挑・超・調 企画シンポジ ウム13	バラスポーツの挑・超・調	多様な生き方を支えるバラスポーツ医学 ～次世代の育成とライフイベントの両立～	上出 杏里	●	
				理学療法士という資格をいかしたバラスポーツへの 関わり方	永盛 雅子		
				バラスポーツ参加と継続の難しさが必要な支援に ついて～バラスポーツを日常的に行う当事者の立 場から～	高安 薫実		
				転んでも大丈夫・スポーツ用義肢製作の35年	臼井二美男		
				日本版重症患者リハビリテーション診療ガイドライン J-ReCIP 2027 理学療法士の立場から	對東 俊介		
		合同 シンポジウム6 (日本集中治 療医学会)	重症患者のリハビリテーションガ イドラインJ-Recip 2027	重症患者のリハビリテーションガイドラインJ-ReCIP 2027 言語聴覚士の立場から	兼岡 麻子	●	
				集中治療領域における認知機能障害へのリハビリテ ーション治療：J-ReCIP 2027が示す新たな指針	児島 範明		
				重症患者リハビリテーション医療における家族参加 の意義と展望	松石雄二朗		
				集中治療医の立場から見たJ-ReCIP 2027	中野秀比古		

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	リハ単位	日整会
10:50～11:50	1	特別講演11		次世代につながるリハビリテーション医学教育 ー学びの体系化と人材教育ー	久保 俊一	●	13,Re
	4	教育講演21		疾患ではなく疾患患者を良くするリハビリテーション治療	西村 行秀	●	
	5	教育講演26		救命から機能回復へ！その先にあるものー脳卒中カテーテル治療とリハビリテーション医療の連携ー	作田 健一	●	
	6	専門医共通講習会7	医療経済 (B)	医療の価値と医療経済ー限られた資源をどう活かすかー	的場 匡亮	●	
	7	医師&専門職調うセミナー11		障害歩行の特徴分析：追尾型歩行計測システムによって得た各種歩行障害データの集約解析	河島 則天	●	13,Re
12:00～13:00	1	ランチョンセミナー7		痙縮治療におけるボツリヌス療法の意義と投与筋の優先順位ー活動と運動学習の観点からー	佐々木信幸	●※	
	2	ランチョンセミナー8		手指リハビリテーション支援ロボットが拓く上肢治療の新時代	内山 侑紀 竹林 崇	●	10,13,Re
	4	ランチョンセミナー9		COPD患者の呼吸リハビリテーションにおける漢方の役割ー補中益気湯の併用効果ー	濱田 泰伸	●	
	5	ランチョンセミナー10		AIが拓くリハビリテーション予後予測の新たな可能性 リハビリテーション医療の支援システムとAI予測分析ツールの掛け合わせがもたらす現場変革	白坂 智英 小野 圭介	●	13,Re
13:10～14:10	1	文化講演3		AI・ロボット時代における『生きる力』の支え方ーリハビリテーション医学とヒューニング学が拓く未来ー	伊藤麻衣子	●	
	4	教育講演22		SpasticityとSpastic movement disorderの病態と治療戦略	山口 智史	●	
	5	教育講演27		誤嚥を防ぐ、その先へー“最後まで食べる幸せ”を支える摂食嚥下リハビリテーションー	井口はるひ	●	
	6	専門医共通講習会8	両立支援 (B)	治療と仕事の両立支援の実践と医療の役割	豊田 章宏		
	7	医師&専門職調うセミナー12		生活行為としての自動車運転を支えるー運転再開・運転中断・地域移動支援ー	澤田 辰徳	●	
13:10～14:40	2	合同シンポジウム5 (社会保険委員会)	令和8年度リハビリテーション診療報酬改定の影響を読み解くー急性期・回復期・生活期の視点からー	令和8年度リハビリテーション診療報酬改定の影響に関する会員アンケート調査の結果報告(速報) 急性期リハビリテーション診療への影響 ー特に急性期加算について 回復期リハビリテーション病棟への影響 特に実績指数の見直しについて 生活期リハビリテーション医療への影響 ー外来診療の位置づけと介護保険との連携ー リハビリテーション診療報酬を適正に算定するための基本原則	土井あかね 羽田 康司 杉原 勝宣 近藤 国嗣 平泉 裕	●	
	3	合同シンポジウム7 (日本生活期リハビリテーション医学会)	生活期の視点が変える、急性期・回復期リハビリテーション医療・支援ー生活期がつながる急性期・回復期ー	その初期介入は「未来のQOL」に届いているか 機能回復から社会復帰への架け橋 ー回復期は、生活につながられているかー 生活期リハビリテーション医療が求める各期の連携と主体性を軸とした一貫した支援の在り方 地域を元気にするリハビリテーション医学ー音楽・アート・農ー 装具難民を生み出さないための急性期・回復期リハビリテーションの役割	森 麻衣子 菅原 英和 和田 真一 新藤 悠子 勝谷 将史	●	
	8	合同シンポジウム8 (RJN合同シンポジウム)	くらしを紡ぐリハビリテーション科医師の役割	回復期退院後のリハビリテーション医療 ー家族と考える高齢者の暮らし ー地域をつなぐ医師ネットワークの構築ー 急性期病院で考えるくらし 小児のリハビリテーション医療(専門施設からみる小児のくらし) 在宅療養支援診療所のリハビリテーション診療 ー移行期から維持期へという考え方ー	永田 智子 豊岡 志保 尾崎 麻希 平岩 文子 瀬田 拓	●	
	1	ジョイント講演	至誠一貫のその先へー第10回秋から第64回春、そして第11回秋へー	至誠一貫のその先へー第64回学術集会で伝えたことー Welcome to the New Era of Rehabilitation Medicine リハビリテーション医学の新時代へようこそ	津田 英一 角田 亘	●	
	4	教育講演23		その嚥下障害、手術で変わるのかー摂食嚥下障害に対する外科的治療の適応判断ー	木村百合香	●	
	5	教育講演28		地域格差に挑み、医療の距離を超えるー遠隔リハビリテーションの現在と未来ー	大田 哲生	●	
	6	専門医共通講習会9	地域医療 (B)	地域医療における生活期医療の課題と可能性 ー外来・在宅・多職種連携の実践から	前島 早代	●	
	7	医師&専門職調うセミナー13		子どもの発達をー感覚ーから紐解く	高橋香代子	●	